

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会・期末配当:3月31日 中間配当: 9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ	0120-782-031 (フリーダイヤル)

### ●住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

住所変更、単元未満株式の買取等については、株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ●未払配当金の支払いについて

未払配当金の支払いについては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

# OLYMPUS®

Your Vision, Our Future

# OLYMPUS VISION

第148期 中間株主通信

2015年4月1日～2015年9月30日



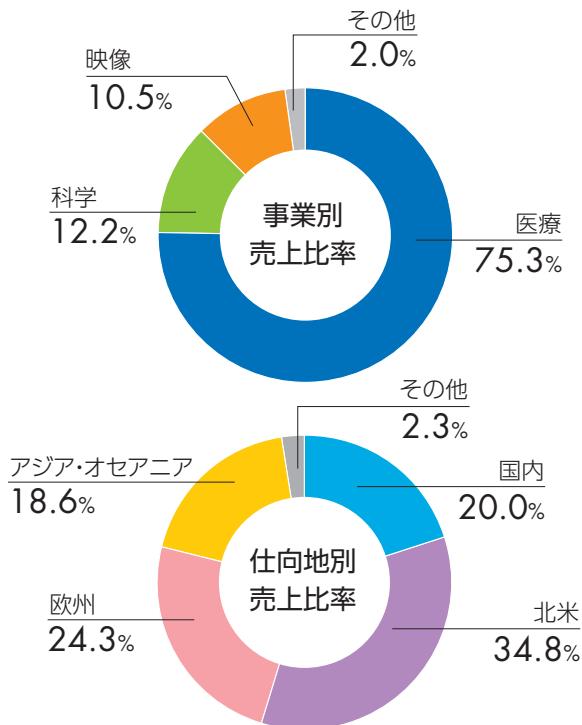
UD FONT  
by MORISAWA

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

オリンパス株式会社

証券コード:7733

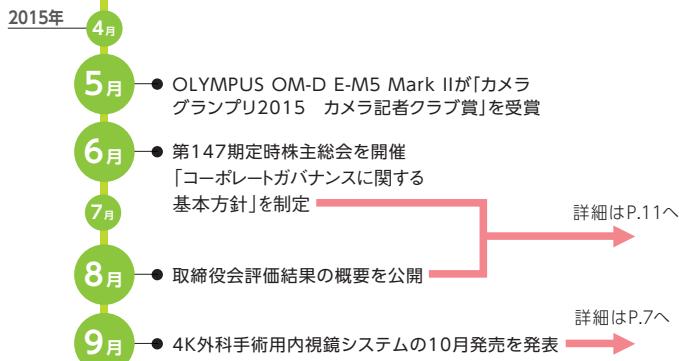
医療事業が過去最高の売上・営業利益  
を更新し、映像事業も損益を改善。  
上半期純利益は60%の大幅増益達成。



CONTENTS

上半期ダイジェスト	1	株主さま向けアンケート	13
トップインタビュー	3	集計結果のご報告	13
ビジネスフォーカス	7	事業部門別概況	14
オリンパスの現場から	9	業績の推移	17
オリンパスニュース	10	連結財務データ	19
コーポレートガバナンス・ コード対応について	11	株式および会社の情報	21

上半期ニュース





## 2016年4月 中期経営計 医療事業を 株主価値向

代表取締役社長執行役員

菅 宏行

## スタートの新たな 画に向けて、 中心としたさらなる 上に取り組みます。

### Q 当上半期の業績についてご説明ください。

前年同期比で売上高が12%増の増収となり、営業利益は30%、純利益は60%増の大幅な増益を達成しました。この好調な業績を牽引した医療事業の上半期業績は4期連続で過去最高の売上および営業利益を更新しており、力強い成長を続けています。

医療事業は消化器内視鏡・外科・処置具の3分野に分かれており、その全分野において10%以上の売上成長を達成しています。主力の消化器内視鏡分野は、2012年の発売から3年が経過した基幹製品「EVIS EXERA Ⅲ(イーヴィス エクセラ スリー)」等の販売が引き続き好調に推移しました。外科分野では主力製品の外科内視鏡システムが好調に推移したほか、エネルギーデバイス(※)「THUNDERBEAT(サンダービート)」の販売が海外市場で大きく伸びました。また、処置具分野では一昨年から販売体制強化を実施した効果が今期から現れており、グローバルに売上を伸ばしています。この結果、医療事業の売上高は前年同期比16%増の2,979億円、営業利益は24%増の679億円と、いずれも昨年の数字を大きく更新して上半期で過去最高の業績となりました。

科学事業はスマートフォンなどに使用される電子部品の製

造工程で必要となる工業用顕微鏡が好調で、売上を伸ばしました。また、世界各地で販売拠点の統合を進めるなどの効率化や、継続的に実施してきた原価低減の取り組みにより、収益性を向上させました。その結果、科学事業の売上高は前年同期比4%増、営業利益については165%増となり、利益を大きく伸ばすことができました。

映像事業は、コンパクトカメラの分野において、市場の縮小に合わせて販売台数を絞り込んだことにより、売上が減少しました。一方で、注力しているミラーレス一眼カメラの分野においては「OM-D」および「PEN」シリーズがいずれも好調で、特に国内や欧州において売上を大きく伸ばしました。その結果、映像事業全体の売上高は10%増の415億円となりました。また、販管費の削減や経営資源の再配分により収益改善を図った結果、0.2億円の営業利益を確保し、前年同期比で38億円の損益改善となりました。

その他事業では、今期から新たに立ち上げた事業開発室において、映像事業から移管した企業向けビジネスを始めとした新事業領域への投資を実施したことにより、33億円の赤字を計上しました。

※エネルギーデバイス:電流や超音波などのエネルギーを用いて外科手術を行う機器

**Q** 今期の計画達成に向けた下半期の取組みを教えてください。

→ 2016年3月期 通期連結業績見通し

	2015年3月期 (実績)	2016年3月期 (見通し)
売上高	7,647億円	8,160億円
営業利益	910億円	1,000億円
経常利益	728億円	860億円
親会社株主に帰属する当期純利益	△87億円	560億円

通期の連結業績は売上高が前期比7%増の8,160億円、営業利益は10%増の1,000億円を見込んでいます。上半期は前述のとおり主要3事業全てで増収増益を達成するなど順調な進捗となっており、下半期も計画達成に向けて着実に取組みを進めます。

計画達成の鍵となるのはやはり医療事業です。地域別に見ると、高成長を期待している中国においては景気減速の影響を懸念しており、一時的に売上の伸びが鈍化する可能性があります。ただし、中長期的には経済成長に伴う内視鏡市場の拡大は不変であり、今後もさらなる販売強化を図ります。国内、北米、欧州の先進国地域においても内視鏡は堅調に需要を伸ばしており、引き続き安定的な成長を見込んでいます。

製品分野別では、特に外科内視鏡分野においてソニーとの合弁会社「ソニー・オリンパスメディカルソリューションズ」で開発した4K外科内視鏡を発売し、成長ドライバーとして大いに期待しています。

→ 中期ビジョン 評価指標の進捗

- ① 投下資本利益率(ROIC)  
▶ 8%の水準まで回復
- ② 営業利益率・自己資本比率  
▶ 2017年3月期目標水準を越えて向上

	2012年3月期 (実績)	2015年3月期 (実績)	2017年3月期 (目標水準)
投下資本利益率(ROIC)*	2.7%	8% ①	10%以上
営業利益率	4.2%	11.9% ②	10%以上
フリーキャッシュフロー (営業CF+投資CF)	△ 48億円	272億円	700億円以上
自己資本比率	4.6%	32.9% ②	30%以上

**Q** 中期ビジョンの進捗と、新たに策定中の次期中期計画について教えてください。

2012年に策定した5カ年の「中期ビジョン」で2017年3月期までの目標に定めた評価指標は、前期時点で営業利益率・自己資本比率は既にクリアするなど順調な進捗となっています。これに満足することなく、今期も収益性改善や財務体質強化を進めていますが、さらなる成長に向けて新たな経営目標を掲げる時期にきています。

今、オリンパスは来期を初年度とする新たな5カ年の中期経営計画を策定中です。新たな計画では、将来の持続的な成長を実現するべく、医療事業へ経営資源を重点投入する方針をさらに明確化していく予定です。

**Q** 最後に株主のみなさまにメッセージをお願いします。

今上半期は大変好調な業績を達成することができました。配当についても期末に1株あたり17円を予定しており、今後も安定的に配当を実施する方針です。事業のさらなる成長と株主還元強化により、さらなる株主価値の向上を目指してまいります。株主のみなさまにおかれましては、今後も一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



\* 投下資本利益率(ROIC) = Return (税引後営業利益) ÷ IC (株主資本+有利子負債)

ソニーとの合併会社が要素技術開発を担当

## 4K技術搭載の 外科手術用内視鏡を発売

外科分野のシェア拡大貢献に期待

オリンパスは、2015年10月に日本とヨーロッパで4K技術を搭載した外科手術用内視鏡システムを発売しました。<sup>\*1</sup>



4Kカメラヘッド

高解像硬性腹腔・胸腔鏡

\*4K外科手術用内視鏡システムに、4Kカメラヘッドと高解像硬性腹腔・胸腔鏡を組み合わせて使用します。

4K外科手術用内視鏡システム  
(システムセット例)

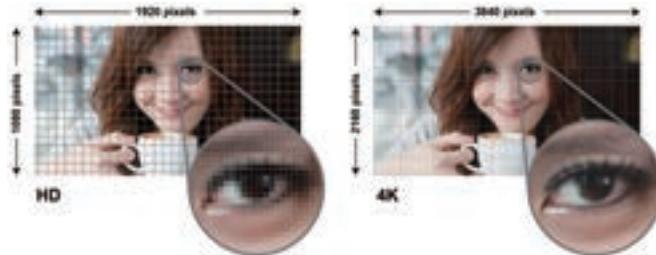
\*1 製造販売元：オリンパスメディカルシステムズ株式会社

### ▼高精細画像で微細な血管などの識別をサポート

体に小さな穴を開けて内視鏡や器具を挿入する方法で行うため開腹の必要がなく、術後の痛み軽減や早期回復が期待できる内視鏡外科手術。今回発売した新たな外科手術用内視鏡システムは、従来機<sup>\*2</sup>のフルハイビジョン映像と比べ

て約4倍の画素数となる4K技術を搭載しました。これまで以上に高精細かつ高い色再現性を持った映像での手術が可能となり、微細な組織や血管の容易な識別をサポートします。

※2 「VISERA ELITE」(2011年10月発売)



フルハイビジョン映像と4K映像の比較

### ▼ソニーとの合併会社で両社の強みを結集

本製品は、ソニーと2013年に設立した合併会社「ソニー・オリンパスメディカルソリューションズ」(SOMED)が開発に携わった初の製品です。ソニーの有するデジタルイメージング技術と、オリンパスの有する光学技術や医療機器製造・開発技術を組み合わせることで、4K映像を始めとした最先端の技術を組み込むことに成功しました。SOMEDでは、今後も両社の強みを組み合わせたさらなる新製品の開発を進めます。

Innovation by  
Sony & Olympus

ソニーとオリンパスが協力した証として、製品には「Innovation by Sony & Olympus」のロゴが表示される

### ▼革新的な新製品で外科内視鏡のシェア拡大へ

現在、オリンパスの外科内視鏡分野での世界シェアは約20%となっています(当社調べ)。今後、SOMED開発の革新的な製品が新たなスタンダードとなることで、2020年までに世界シェアを30%まで伸ばす計画です。医療事業のさらなる成長に向けて、外科内視鏡を中心とした外科分野にはこれまで以上に注力してまいります。

ソニー・オリンパスメディカル  
ソリューションズ  
商品開発部

かんのきよたか  
**菅野清貴**さん



第一線で活躍するオリンパスの若手社員にインタビューする本コーナー。

今回は、ソニー・オリンパスメディカルソリューションズ(SOMED)に出向し、外科用4Kビデオ内視鏡システムの要素技術開発にも携わった菅野清貴さんに話を聞きました。

## 医療法規制対応を通じて製品開発を学ぶ

2007年にオリンパスに入社した私は、ビデオ内視鏡システムのビデオプロセッサ開発に携わりました。万が一にも患者が感電するようなことがないよう、内視鏡は一般的な機器よりも安全基準が厳格に定められています。私は大学で専攻した電気工学の知識を生かし、患者の安全性を高めるための電気回路を担当しました。これを始めとした医療法規制対応の開発業務に携わったことで、ビデオ内視鏡システムの設計を全体的に把握することができ、製品開発に必要な知識を大いに深めることができました。

## 一からスタートした会社で自分のアイデアを発揮

2013年にSOMEDが設立された時、この新しい職場でのチャレンジに魅力を感じた私は、当時の上司に直談判して出向させてもらいました。社外に出て初めて分かったのは、オリンパスは医療機器開発の設備や人材が非常に整っていたということです。SOMEDでは開発環境を一から構築する必要があり、最初はとても苦労しました。

ただ、チャレンジをするには最高の環境でした。オリンパスではやり方が決められている部分も、SOMEDでは自分のアイデアで工夫することができました。また、ソニーで様々な製品開発を経験してきた技術者と一緒に仕事をすることで、多くのことを学びました。

## 日本企業の技術力を世界に発信したい

SOMEDではオリンパスとソニーの技術者が企業の壁を超えて協力しています。今回の新製品は、日本企業の高い技術が結集された素晴らしいものを作ることができたと自負しています。これからもSOMEDならではの製品を開発し、日本の技術を世界に発信していきたいと思えます。

## 白河事業場の新工場棟を竣工

医療用内視鏡の製造・修理・調達機能を強化

オリンパスは、2012年12月に発表した新工場棟建設計画のもと、医療機器の盤石な生産体制構築を目的とした主要製造拠点(会津、白河、青森)での新棟建設を進め、このたび2015年10月7日に白河事業場が竣工を迎えました。

白河事業場には、医療用内視鏡の製造・修理・調達という3つの機能が集約されています。今回の新棟建設により、生産効率の向上や保守・アフターサービスの強化を図ります。

白河事業場では主に医療用内視鏡ビデオプロセッサや光源装置を製造しており、今後はソニーとの合併会社「ソニー・オリンパスメディカルソリューションズ」で開発した外科手術用4K内視鏡システムなどの製造も行います。

また、東日本大震災の発生時に製造拠点の機能が一時的にストップした反省を踏まえ、災害対策として耐震構造を導入したほか、太陽光発電や冷水蓄熱塔も備え、環境にも配慮しています。従業員の増員も計画しており、地域社会の雇用創出にも貢献します。

会津、青森の新工場棟竣工も2016年4月に予定しており、医療事業のさらなる成長に向けた取組みは進んでいます。今後も医療事業を通して、新しい価値を提案し人々の健康と幸せな生活を実現していきます。



## オリンパスのコーポレート

政府の成長戦略『日本再興戦略』改訂2014を受けて、上場諸原則を取りまとめた「コーポレートガバナンス・コード」が、オリンパスは2012年の新経営体制発足以降、コーポレート・積極的に取組みを進めてまいりました。今回のコード制定にあい対応を行いました。

### 基本原則への対応方針

コーポレートガバナンス・コードが定める5つの基本原則につ

#### 基本原則

1

#### 株主の権利・平等性の確保

オリンパスは、株主の権利を確保するために適切な対応を行っています。具体的には、招集通知の早期発送や情報の充実、英訳版も含めたホームページへの掲載など、外国人株主を含めた全ての株主に対して平等に情報を提供し、権利行使のための十分な情報と検討期間が確保できるよう配慮しています。

#### 基本原則

2

#### 株主以外のステークホルダーとの適切な協働

オリンパスは「Social IN(ソーシャル・イン)」の経営理念のもと、社会の多様な価値観や期待を経営に取り入れていくことが、企業の社会的責任を果たすことにつながるものと考え、幅広いステークホルダーとの対話を通じ、社会への責任を果たしながら、社会とともに持続可能な成長を目指しています。

#### 基本原則

3

#### 適切な情報開示と透明性の確保

オリンパスは、法令に基づく適切な開示のほか、意思決定の透明性・公平性の確保と、実効的なコーポレート・ガバナンスを実現するため、ホームページやアニュアルレポート、株主通信、任意での適時開示など、様々な形で主体的な情報発信を行っています。

## ガバナンス・コード対応

会社の実効的なコーポレート・ガバナンスを実現するための2015年6月に施行されました。

ガバナンス体制の強化を最重要の経営課題の一つに位置づけ、たっても、その主旨に賛同し、コードの原則を遵守すべく速やか

いて、当社の取組み状況をご説明します。

#### 基本原則

4

#### 取締役会等の責務

オリンパスは、取締役会の半数を独立社外取締役が占め、経営の執行と監督が明確に分離された体制を構築するとともに、多様な専門性と価値観を有する各社外取締役が客観的な立場から意見を述べることによって、取締役会の経営に対する実効性の高い監督機能を実現しています。

#### 基本原則

5

#### 株主との対話

オリンパスは、社長やCFO、各事業のトップ、社外取締役などの経営陣が積極的に株主との対話を実施するとともに、株主通信を始めとした様々な形で当社の経営戦略を株主に説明しています。

### C H E C K ! コード関連開示

オリンパスは、コードの原則に基づき迅速な情報開示を実施しています。

#### ●コーポレート・ガバナンス報告書

6月の株主総会直後にコーポレート・ガバナンス報告書を提出し、コードが求める全ての項目を実施していることを公表しました。

#### ●コーポレートガバナンスに関する基本方針

コードの対応状況を踏まえた「コーポレートガバナンスに関する基本方針」を新たに制定しました。

#### ●取締役会評価結果

取締役会の実効性を高めることを目的に、第三者の視点も加えて取締役会の自己評価を実施し、その分析結果の概要を公表しています。

開示の詳細は、当社公式サイト内「コーポレート・ガバナンス」ページをご覧ください。

<http://www.olympus.co.jp/jp/ir/governance/>

# 株主さま向けアンケート集計結果のご報告

第147期株主通信に同封しましたアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。いただいたご意見の一部をご紹介します。

皆さまからお寄せいただいた貴重なご意見は、今後のIR活動の参考にさせていただきます。今後とも、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 株主さま向けアンケート実施概要

- ①実施期間：2015年6月～9月
- ②実施方法：第147期株主通信に同封のアンケートハガキによる郵送調査
- ③対象者：2015年3月31日時点における株主25,696名
- ④回収数：1,383通(回収率：5.4%)

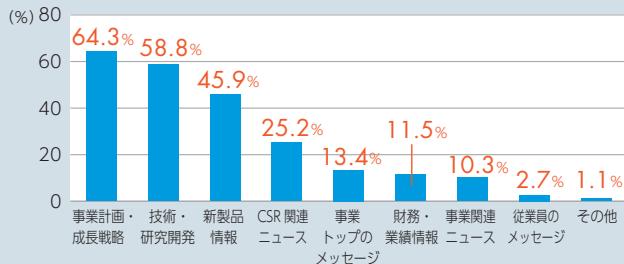
## Q 当社の株式を保有している理由(複数回答可)



## Q 今回の株主通信で良かったコンテンツ



## Q 今後の株主通信で知りたい情報(複数回答可)



# 事業部門別概況

## 医療事業

内視鏡ビデオスコープシステム  
[EVIS EXERA (イーヴィス エクセラ) III]

さらなる高画質化と患者様の苦痛低減、使いやすさを追求した内視鏡ビデオスコープシステムの最上位機種



## 売上高

2,979 億円

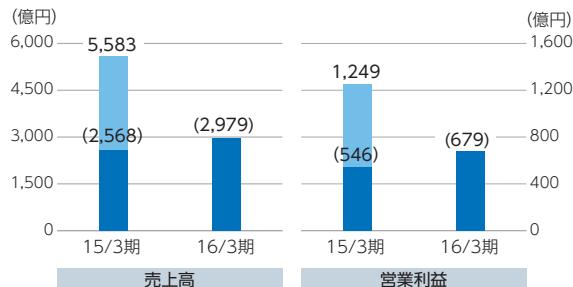
消化器内視鏡分野において主力の内視鏡基幹システムが引き続き好調だったほか、外科分野では内視鏡統合システム「VISERA ELITE (ビセラ・エリート)」やエネルギーデバイス「THUNDERBEAT (サンダービート)」、処置具分野ではディズポーザブル回転クリップ装置「QuickClip Pro」等が販売を伸ばし、増収となりました。

## 営業利益

679 億円

各分野製品の好調な販売による増収に伴い、増益となりました。

## 売上高・営業利益の推移



■ 上半期 ■ 通期 ※ ( )内の数値は上半期の数値です。

## 科学事業

### 工業用顕微鏡「STM7」

微細な半導体部品や電子部品などの製造工程における形状測定を効率的に行える測定顕微鏡



### 売上高

485 億円

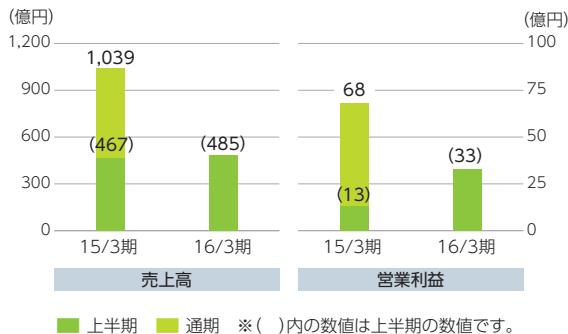
ライフサイエンス分野では国内研究施設の予算執行が鈍化している影響で売上がほぼ横ばいとなったものの、産業分野においては電子部品の製造工程で使用される工業用顕微鏡がスマートフォン関連顧客向けに販売を伸ばすなど好調で、科学事業全体の売上高は増収となりました。

### 営業利益

33 億円

増収に加えて原価低減や販売拠点の統合等による効率化を進めた結果、増益となりました。

### 売上高・営業利益の推移



## 映像事業

### ミラーレス一眼「OM-D E-M5 Mark II」

5軸手ぶれ補正機構や高速オートフォーカス、防塵・防滴・耐低温などの高性能を機動力に優れたボディに凝縮したミラーレスカメラ



今期より、従来「映像事業」に区別されていた新規事業を「その他事業」に変更しておりますので、前年同期の数値も変更後の区分に組み替えています。

### 売上高

415 億円

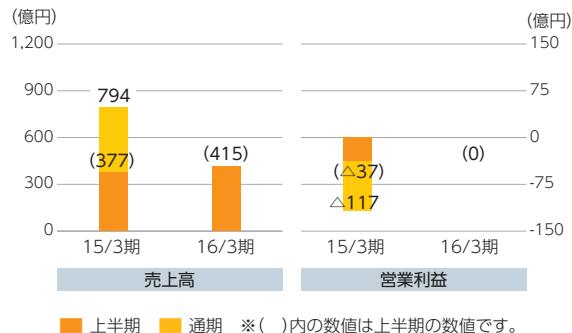
ミラーレス一眼カメラの分野において、「OM-D」および「PEN」シリーズが国内・欧州を中心に売上を伸ばしたほか、コンパクトカメラの分野では市場の縮小に合わせて販売台数を絞り込みながらも、高付加価値モデルへのシフトを進めたことで売上はほぼ横ばいとなりました。その結果、映像事業全体の売上は増収となりました。

### 営業利益

0 億円

増収に加え、経営資源の再配分やコスト削減の取り組みを進めたことにより、前年同期比で38億円の損益改善となりました。

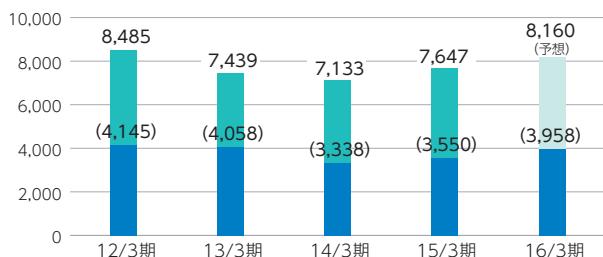
### 売上高・営業利益の推移



■ 上半期 ■ 通期 ※ ( )内の数値は上半期の数値です。

### ▼ 売上高の推移

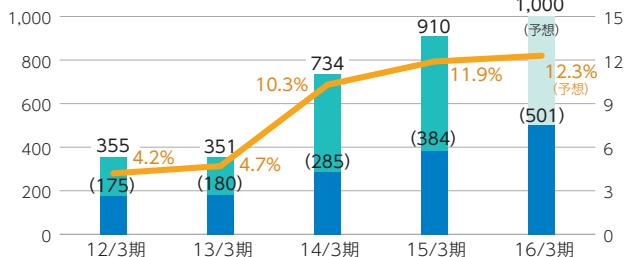
(単位: 億円)



過去最高の売上を更新した医療事業に加え、科学事業、映像事業の主要3事業が増収となり、全体でも増収となりました。

### ▼ 営業利益および営業利益率の推移

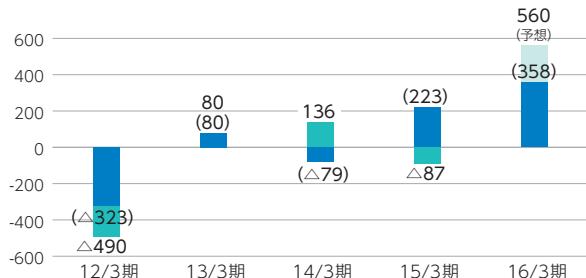
(単位: 億円)



医療事業および科学事業の増益に加え、映像事業の損益が改善したことで、大幅な営業増益となり、営業利益率も上昇しています。

### ▼ 親会社株主に帰属する当期(四半期)純損益の推移

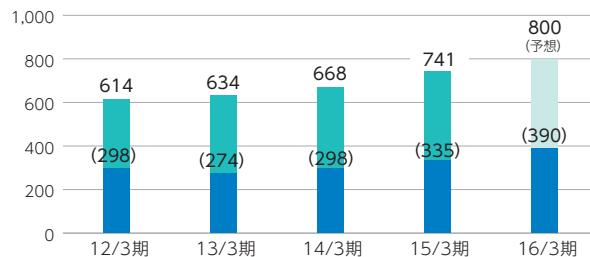
(単位: 億円)



好調な事業活動による営業増益に加え、有利子負債の削減に伴う営業外費用の減少もあり、四半期純利益は大きく増加しました。

### ▼ 研究開発費の推移

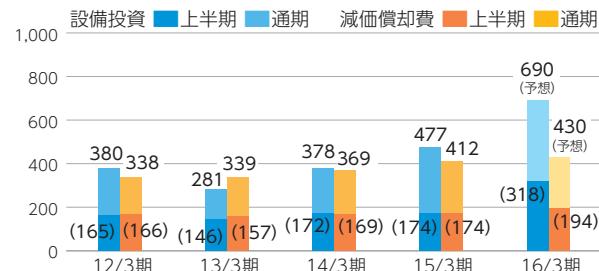
(単位: 億円)



医療事業を中心に積極的な研究開発への投資を継続しており、売上に対する研究開発費の比率は約10%の水準を維持しています。

### ▼ 設備投資・減価償却費の推移

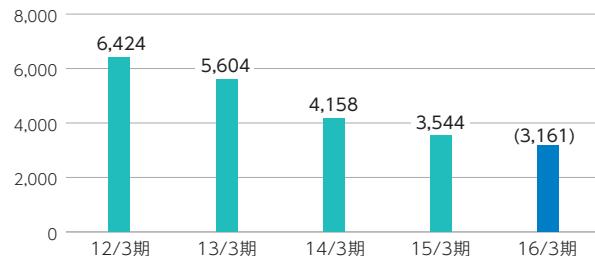
(単位: 億円)



今期竣工した白河を含む医療事業の生産拠点拡充により設備投資額が大きく増加しており、それに伴って減価償却費も増加しています。

### ▼ 有利子負債の推移

(単位: 億円)



財務健全化の一環として有利子負債の削減を継続的に進めており、自己資本比率の向上や支払利息の削減に寄与しています。

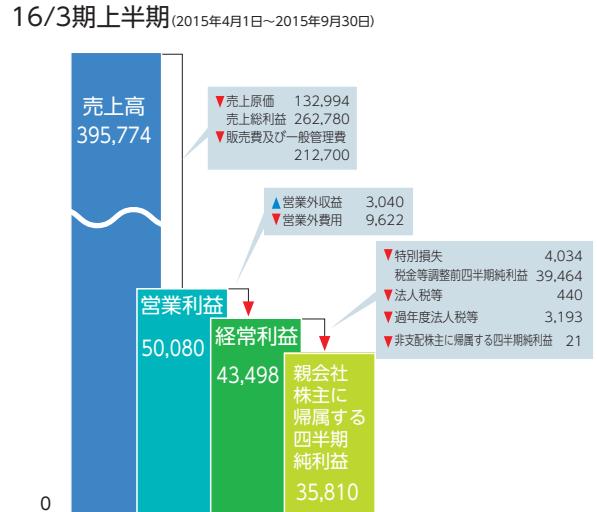
▼ 財務状況 (単位:百万円)

15/3期 (2015年3月31日現在)		16/3期上半期 (2015年9月30日現在)	
流動資産	577,528	流動資産	548,525
固定資産	504,023	固定資産	508,010
<b>資産合計</b>	<b>1,081,551</b>	<b>資産合計</b>	<b>1,056,535</b>

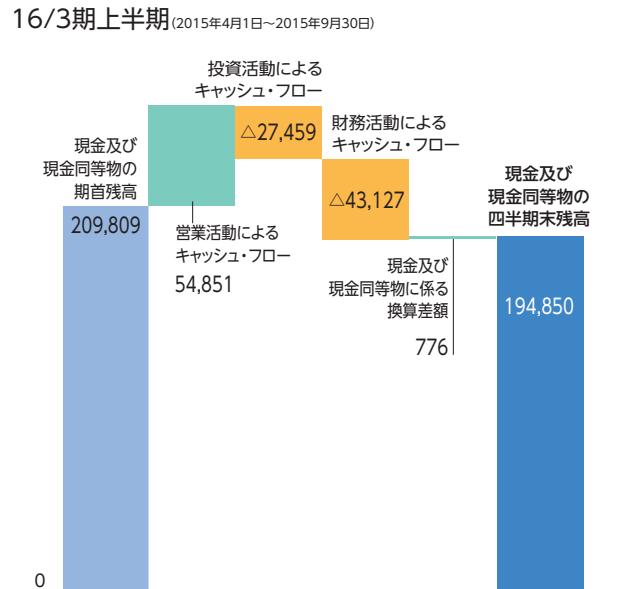
  

15/3期 (2015年3月31日現在)		16/3期上半期 (2015年9月30日現在)	
流動負債	374,793	流動負債	344,521
固定負債	349,504	固定負債	319,889
純資産	357,254	純資産	392,125
<b>負債純資産合計</b>	<b>1,081,551</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>1,056,535</b>

▼ 損益の状況 (単位:百万円)



▼ キャッシュ・フローの状況 (単位:百万円)



©さらに詳しい財務情報は当社ウェブサイトにてご覧ください。

<http://www.olympus.co.jp/>

トップページ

「投資家情報」をクリック



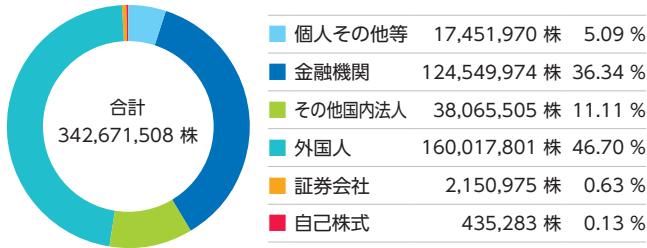
Contents

- 株式・社債情報
- 経営方針
- 財務・業績情報
- コーポレートガバナンス
- IRライブラリー など

## 株式状況 (2015年9月30日現在)

発行可能株式総数	1,000,000,000 株
発行済株式総数	342,671,508 株
株主数	27,684 名

## 株式の分布状況 (2015年9月30日現在)



## 大株主 (2015年9月30日現在)

日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	18,053,400 株
ソニー株式会社	17,243,950 株
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	14,871,628 株
日本生命保険相互会社	13,286,618 株
株式会社三菱東京UFJ銀行	13,286,586 株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	12,319,700 株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・ 株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	11,404,000 株
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223	9,678,225 株
株式会社三井住友銀行	8,350,648 株
ジェーピーモルガンチェースバンク 385147	5,994,700 株

## 会社概要 (2015年9月30日現在)

設立	1919年10月12日
資本金	124,520百万円
従業員数	32,569人(連結) 6,498人(単体)
本店	〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号
本社事務所	〒163-0914 東京都新宿区西新宿2丁目3番1号 新宿モノリス (03)3340-2111 (代表) <a href="http://www.olympus.co.jp/">http://www.olympus.co.jp/</a>
事業場	八王子市(東京都)、上伊那郡(長野県)、 西白河郡(福島県)
支店	札幌、名古屋、大阪、広島、福岡
営業所	仙台、横浜、新潟、松本、静岡、金沢、松山
海外拠点	アメリカ、ドイツ、イギリス、中国、シンガポールほか

## 役員 (2015年9月30日現在)

代表取締役社長執行役員	笹 宏 行	常務執行役員	境 康
取締役専務執行役員	竹 内 康 雄	常務執行役員	窪 田 明
取締役専務執行役員	田 口 晶 弘	常務執行役員	阿 部 信 宏
取締役常務執行役員	林 繁 雄	執行役員	西 垣 晋 一
取締役常務執行役員	小 川 治 男	執行役員	川 田 均
社外取締役	後 藤 卓 也	執行役員	川 俣 尚 彦
社外取締役	蛭 田 史 郎	執行役員	古 閑 信 之
社外取締役	藤 田 純 孝	執行役員	矢 部 久 雄
社外取締役	西 川 元 啓	執行役員	半 田 正 道
社外取締役	鶴 瀬 恵 子	執行役員	吉 益 健
常勤監査役	斎 藤 隆	執行役員	北 村 正 仁
常勤監査役	清 水 昌	執行役員	小 林 哲 男
社外監査役	名 古 屋 信 夫	執行役員	平 田 貴 一
社外監査役	名 取 勝 也	執行役員	大 久 保 俊 彦
		執行役員	彦 坂 充 洋
		執行役員	清 水 佳 仁
		執行役員	稲 富 勝 彦
		執行役員	土 屋 英 尚
		執行役員	斉 藤 吉 毅